

# 「北まるnet」登録者大幅増加

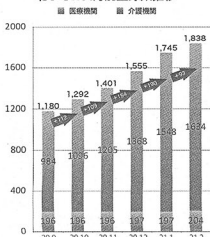
## 北見市医療福祉協議会 情報連携協議会

北見市医療福祉情報連携協議会が2011年から運用する医療介護情報共有システム「北まるnet」。20年10月から救急隊員も連携できるようになったのを踏まえ、行政をはじめとする協議会メンバーが65歳以上市民の事前登録呼び掛けを強化したところ、5カ月間で658人増えたという。これまでの登録数は年間100人前後の横ばいで推移していたことから協議会メンバーは手応えを感じており、「今後は65歳以上高齢者の2割まで伸ばしたい」と話している。

北まるnetは医療 協議会メンバーでもなく、病院側でも緊急介護連携を円滑化する ある同組合によると、連絡先が分からないためにICTを活用し 19年度に救急搬送し 家族から医療処置同て利用者・患者情報を たのは5484件、そ意を得られず、治療の共有する情報通信技術 のうち65歳以上が全体 遅れるのが課題だった。システムで、市内の介 の6割強を占めるとい た。

護保険事業所、医療機 う。救急搬送時に本人 同組合はシステム運 関、行政、北見地区消防 意識がなく、家族等 用時から救急搬送時の 組合などの有志で構成 緊急連絡先、かかりつ 活用を希望。16年に市 される協議会が運営と け協が不明だと搬送先 内一部地域で実証実験 管理を担う。 病院を決めるのは困難 を実施したところ搬送

北まるnet月別登録数推移



## 救急隊員システム活用きっかけ

時間が2分30秒短縮される等、市内全域で同じれるなど、手応えがあるシステムと連携できるよったことから、救急隊う環境を整えてきた。

員の携帯電話を全てスマートフォンに移行す ムは介護事業所から医を目的として、市の広

療機関へ入退院する際 支援センターによる活 門職がシステムに入力 などに情報共有で機能 動も大きく貢献してい する流れとした。入力 していたものの、登録 る」と分析。これまで 内容は緊急連絡先、か 者数は介護サービス利 包括Cが介入しづらか かりつけ医、医師、病 用者がほとんどで、年 った軽度認知症世帯に 名、禁忌事項、担当ケア 間100人前後の横ば 訪問するきっかけづく マネ、訪問看護ステー いが続いていた。 ション、入院歴など。

救急隊員のシステム にも呼び掛けたのが功 救急隊員によるシス

連携をきっかけに、要 を奏したという。 要介護認定を受けて 登録していた独居高齢 者が救急搬送された際 にも、スマ ーズに家族 と連絡がと

紙報、新聞、フリーペーパー等で周知を強化。5カ月間で新規登録者658人に つながった。

同協議会の 関健久副 会長は「登 録数増加に 包括C、居宅ケアマネ を通じて申し込み、専 能を拡大していく考え。

## 65歳以上市民 2割が目標に

今後はさらに登録者 数を増やすため、市内 の65歳以上高齢者のう ち2割を目指すほか、「人生の最終段階における医療とケアに関する意思表示」も登録内容に盛り込むことを視野に入れ、本人が望む適切な医療と介護を受ける情報源としての機能を拡大していく考え。